

大虫地区の戦争遺跡



水師營において急拵えの祭壇の前に立ち、招魂祭を行う乃木将軍。土嚢を積み上げ、砲弾を備えた形式が後の忠魂碑のモデルとなった。柱の文字「第三軍戦死病没□□之霊」

忠魂碑(2代目) 大虫小学校

1927年(昭和2)、日露戦争戦死者を慰霊するため、小学校校庭に設置。軍艦の砲身に金文字で「忠魂碑」と記されていたが、1948年(昭和23)GHQにより撤去。1951年(昭和26)サンフランシスコ講和条約調印により、沖縄・小笠原諸島を除き占領終了。1954年(昭和29)現在の場所に再建。忠魂碑の土盛りは水師營祭壇の土嚢、円柱は砲弾を模したものである。



「征清記念碑」(明治36年 1903)

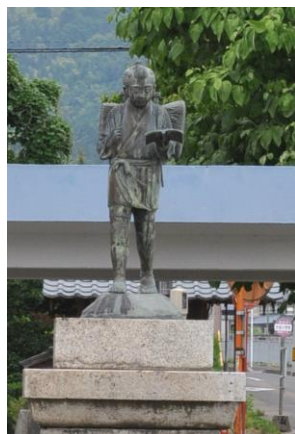
「陸軍中将従四位勲二等功三級男爵大嶋久直書」銘

日清戦争勝利を記念して造られたものと思われる。大島中將は、秋田藩出身の軍人。日清戦争の功により、1895年男爵となる。1898年中將に昇進、第9師団長(金沢)となる。1906年日露戦争の功により大將に昇進。

「南無阿弥陀仏」碑 (上四目ふれあい会館)

「慶応四年戊辰三月立之為地頭願主 武運長久」銘

上四目村は、三河国西尾藩領であった。西尾藩は新政府軍に与し戊辰戦争では京都の警備を任されたことから、この碑も戊辰戦争との関係が考えられる。話は変わるが、慶応4年(1868)正月旗本金森家では、牧谷村に兵を出すよう要請している。そこで庄屋たちは、吉三郎に対し万一討死した場合、10年間米8俵を渡すことを約束し、従軍を促している。牧谷村の例から、推察して、この石碑は上四目村から農民が兵として駆り出され戦死した証ではないかと思われる。碑文の「地頭」は西尾藩天王陣屋代官であろう。



二宮金次郎像(大虫小学校)

二宮尊徳(1787-1856)の子供時代の像である。昭和の初めごろから、篤志家、同窓会などが小学校に寄付した。材料は青銅、花崗岩、陶器(備前焼・九谷焼・信楽焼)であった。しかし、1941年(昭16)、金属回収令が公布され、鍋、釜、梵鐘などと共に全国の金次郎像も回収された。この金次郎像も元は、1937年(昭12 尊徳没80年)を記念して、寺尾甚兵衛氏が寄贈、1942年(昭17)3月供出され、その後石像に代わった。約40年の時を経て1983年(昭58)奥山巧氏により銅像が再建された。正面下の銅板は供出を免れた。揮毫(きごう)者齋藤実(さいとうまこと 1858-1936)は、総理大臣。2. 26事件で反乱軍により殺害された。近くの神山小学校には、備前焼の金次郎像がある。これも金属回収令直後に陶製で再建したものであろう。